

小平市地域防災計画修正に伴う地域懇談会の実施報告

小平市では、令和5年度及び令和6年度の2か年で小平市地域防災計画（※）の修正を行っています。

小平市地域防災計画の修正に伴い、市民の皆様の防災に対する意見や考えを聞き、当該計画の修正の参考とするため、「避難所運営、自助・共助の視点からの防災対策等」、「女性の視点からの防災対策」をテーマに次のとおり地域懇談会を開催しました。

※ 小平市地域防災計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき小平市防災会議が策定する法定計画です。本計画は、地域に係る防災に関し、市及び市域内の公共的団体その他防災上重要な施設の管理者の処理すべき事務又は業務の大綱等を規定し、市民の生命、身体及び財産を保護することを目的に策定しています。

1 日時等

(1) 避難所運営、自助・共助の視点からの防災対策等

- ・令和6年1月17日（水）午後7時～午後8時30分 中央公民館講座室2
- ・令和6年1月28日（日）午後2時～午後3時30分 東部市民センター集会室
- ・令和6年2月3日（土）午前10時～午前11時30分 小川西町公民館ホール

(2) 女性の視点からの防災対策

- ・令和6年2月18日（日）午後2時～午後3時30分 中央公民館講座室2

2 概要

小平市地域防災計画の修正概要の説明のほか、「避難所運営、自助・共助の視点からの防災対策等」、「女性の視点からの防災対策」をテーマに、意見交換を実施しました。

3 主な質問・意見（抜粋）

(1) 自助・共助関係

- ・所属する自治会では高齢化が進んでいて、若者も少ないため、高齢者と若者の繋がり希薄である。繋がりを作ることが難しい。
- ・自治会が実施したフェスは、子どもが楽しめる内容が多いため、子ども及び親は参加してくれるが、その他の現役世代は参加しない。災害時、現役世代の力は必要であるため、どのように巻き込んでいくか課題である。自治会内の交流を深める方法があれば教えてほしい。
- ・避難行動要支援者登録名簿の提供について、自治会と市で協定を結んでいるが、災害時に機能するか疑問である。
- ・外国人の避難者について、自治会が対応するべきものなのか。
- ・自助は在宅避難がポイントとなる。在宅避難の備えが重要である。
- ・共助と公助のそれぞれが受け持つ範囲が不明である。また、共助と公助がどのように連携していけばいいのか分からない。具体的に記載してほしい。
- ・自宅の倒壊より火災がこわい。
- ・高齢者が共助を実施するのは難しい。
- ・避難所の運営は行政が行うものであり、住民が行うとは考えてもいなかった。本日の話を聞いて、考えを改めた。
- ・防災倉庫に入っている資器材を公開してほしい。

- ・災害時、下水道は使えるのか。防災行政無線の自動音声応答サービスについて、市民は知っているのか。
- ・今回のような地域懇談会をたくさん開催すべきである。
- ・普段から近所でコミュニケーションをとることが重要である。
- ・安否確認に使用する黄色タオルは有効である。安否の表示は重要である。市内全体でルールがあるといいのではないか。
- ・トイレは非常に大事であり、自分で準備する必要がある。自治会の回覧でもトイレの備蓄の重要性を伝えている。
- ・個人で準備が難しいものを自治会で準備している。

(2) 避難所運営関係

- ・物資はいつ配布されるのか。
- ・避難所は誰が開設するか。開設の基準はあるか。誰が運営を仕切るのか。
- ・ペットの飼養場所は屋外でいいのか。同室避難を検討してほしい。
- ・ペットは屋根のあるところへの避難を検討してほしい。
- ・マンホールトイレは注水の訓練をやっていないので、災害時に使用するときは大変だと思う。
- ・市へ期待することは2点ある。①住民の避難所運営の体制の確立と②トイレの備蓄である。
- ・避難者の意見をまとめる係も必要である。
- ・女性や高齢者の意見をくみ上げることが大事である。
- ・避難所開設準備委員会の参加者が災害時の避難所運営を指揮してほしい。避難者が指揮するのは難しい。あらかじめ、指揮する人を決めておくとよい。
- ・避難所運営マニュアルどおりに避難所運営できるか、詳細が記載されていないと思う箇所もあるので不安である。
- ・他市の学校に避難する予定なので、市は近隣市と避難所開設について連携して対応してほしい。
- ・マンホールトイレが使用できなかつたときはどうするのか。
- ・市は簡易トイレの備蓄量や備蓄場所、備蓄してあるところや、簡易トイレの使い方をもっと周知したほうがいい。
- ・避難所開設準備委員会へ参加してみようと思った。

(3) 女性の視点関係

- ・避難所のトイレは男女で距離を置き、見張り番をつけてほしい。
- ・マニュアルにあるとおり、避難所運営の役員は男女で半々にしてほしい。
- ・避難所開設訓練でパーテーションを実際に開いて並べてみたが、4人で1つは狭いので在宅避難できるよう対策を進めていきたい。
- ・パーテーションの高さが低いので目隠し的な意味で高いパーテーションの方がいいのではないかと。
- ・備蓄品に沐浴剤、お尻ふきも入れてみてはどうか。
- ・避難所には更衣室、授乳室が必要である。
- ・避難所生活を想定したとき、夜間のトイレは明かりもない暗闇で防犯が心配。ソーラーライトなどがあればいい。
- ・独身やシングルマザーが孤立して犯罪のターゲットにされやすいのではないかと。
- ・避難所責任者の人は責任者という紙が入ったビブスを着るなどして分かるようにしてほしい。
- ・自分自身ができることをホワイトボード等にみんなで書いて周りにわかるようにしてほしい（子どもの面倒をみられる、お年寄りの話し相手になれる等）。
- ・液体ミルクだけではなく、吸い出す部分も必要である。
- ・ミルクの備蓄の管理はどうなっているのか。

- ・女性の視点での防災対策は、今後も市各課で連携し共同で講座などを行い、啓発活動を行って欲しい。
- ・昼間の防災訓練が多いので夜に発災したときの対策も必要である。

(4) その他意見等

- ・小平市社会福祉協議会の防災講座で、能登半島地震の関係で石川県にボランティアセンターの職員を派遣したと聞いた。小平市でも職員を派遣し、災害復旧の経験をさせるべきである。
- ・小平第五小学校では6年生が段ボールトイレの制作を行った。上下水道及び電気のいずれか一つでも使用できない場合には段ボールトイレを作り、使用することを学んでいる。子どもから保護者へ家族間で共有することで周知に繋がっている。